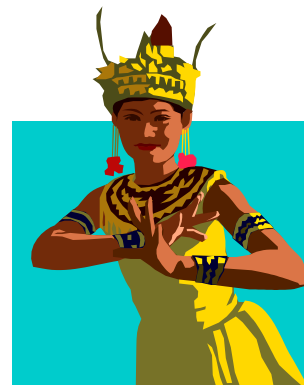
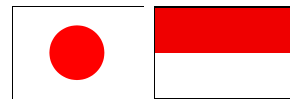


インドネシア今後の成長産業トップ10





自己紹介



- 1975/4～1981/6 ヤマハ(株)入社 インドネシア工場立上支援部門
- 1981/6～1987/3 インドネシア工場生産課長 電子鍵盤楽器の組立生産
- 1987/3～1995/7 インドネシア工場長 電子楽器、ピアノ、ギターの輸出拠点化
- 1995/8～2005/3 帰国、インドネシアを普及品の生産拠点化するプロジェクト
- 2005/3～現在 ヤマハ退職、インドネシア進出サポートコンサルタントとして独立

インドネシア語翻訳・通訳

ジェットロ専門家(2013年～2021年)

OBACアドバイザー

AOTSインドネシア経営者研修コース講師

一般社団法人日本インドネシアビジネス協会理事

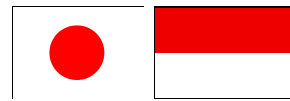
これまでの支援企業数は約100社
コロナ以前は毎月インドネシアに出張

現在はインドネシアからのニュースや政府発表を毎日インドネシア語でチェックしています。

インドネシアとの
関わりも46年に
なりました。



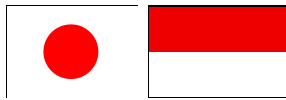
セミナー要旨



- 2年間続いたコロナ禍はインドネシアにおいても漸く収束の兆しが見えて来ました。
- 独立100周年を迎える2045年に向けて、官民を挙げての経済成長に対する施策が加速すると期待されます。
- 1968年以降はスハルト政権の下で自由経済への取り組みを進めて来ました。
- そして2004年以降はユドヨノ政権ならびにジョコウィ政権の下、民主化への取り組みを進めて来ました。
- これらの経緯を見据えて、今後の成長が期待される産業は何かをSWOT分析を基に検証してみます。



目次



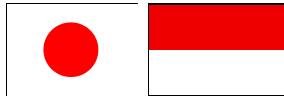
1. 椰子殻バイオ燃料
2. 養殖
3. リチウムイオン電池
4. ガソリン自動車
5. 住宅
6. 生鮮食品輸送
7. ハラル食品
8. 生活ゴミ発電
9. オンラインショップ
10. 生命保険

7





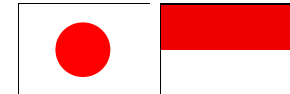
1. 椰子殻バイオ燃料



総合評価	機会	脅威
エネルギー分野でメジャーになることはないが、継続した供給と需要を基盤にした事業が期待出来る。	インドネシア政府はバイオ燃料の割合を2025年に5%以上を目指す。	椰子油全世界生産量の27%を占める隣国マレーシアとの競争。
強み	強み×機会	強み×脅威
2019年度の椰子油全世界生産量の57%を占め断トツで世界一。	インドネシア国内市場向けと先進国市場向け輸出の両面での事業展開。	アセアン最大の国内消費市場を基盤としたスケールメリットでの価格競争力強化。
弱み	弱み×機会	弱み×脅威
インドネシア国内においても椰子殻等のバイオマス燃料による発電量の割合は全体の1%以下。	政策事業としての優遇税制などを受ける可能性あり。	国内需要を増やすための政府との協力関係を強化する。



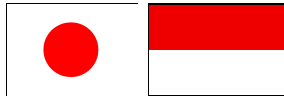
2. 養殖



総合評価	機会	脅威
中国の食料安全保障政策の一環としてインドネシアの養殖産業は狙いを付けられる。	島嶼国家のため海上養殖と沿岸養殖に向いている。	2020年の雇用創出法で外資に開放されたことによる中国企業の大規模進出。
強み	強み×機会	強み×脅威
全世界養殖水産量の13%を占め、中国の57%に次いで第2位。 2000年から2020年の業者数は変わらず養殖水産量は約5倍に増えている。	既存の養殖事業社によるインドネシア各地での事業拡大。	日本の先端養殖技術を活用した国内企業保護。
弱み	弱み×機会	弱み×脅威
コールドチェーンの未発達で鮮魚の国内市場への供給が制限される。	生産地の分散によるコールドチェーン未発達の影響軽減。	養殖とコールドチェーンをセットにした中国資本の進出。



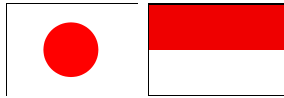
3. リチウムイオン電池



総合評価	機会	脅威
EVの供給国構想はリスクがあるが、リチウムイオン電池の用途は幅広いので可能性は多々ある。	インドネシア政府は2045年までにインドネシアを年間400万台のEV供給国とする目標を掲げている。	環境保護の名の下で展開しているEVは本当にガソリン車に取って代わるのか未定。
強み	強み×機会	強み×脅威
全世界のニッケル生産量の25%を占める第1位のリチウムイオン電池原料生産国。	年間EV生産400万台実現に向けた関連事業への進出。	EVで獲得したリチウムイオン電池の生産技術を他の産業分野へ展開する。
弱み	弱み×機会	弱み×脅威
電池の大量生産に必要な技術と資金を中国、韓国に依存している。	国家の戦略分野への海外投資に対する優遇税制。	EVの生産拠点化が実現しなくてもこの分野でのインドネシア人材は育つ。



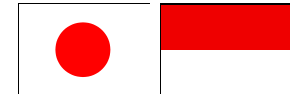
4. ガソリン自動車



総合評価	機会	脅威
EVへのシフトも話題になっているが、今後30年はガソリン車の需要は伸びる。	中間層の伸びに合わせて毎年100万台近くが販売されている。	中国のメーカーが本格的に製造拠点を構築し市場に参入しつつある。
強み	強み×機会	強み×脅威
日本車のシェアは95%近くに達する。 政府主導の成果で現地化率が60%を超えている。	先行者利益で日本車のシェア維持は今後も維持される。	価格競争ではなく、品質と安全性の優位性を追求し続ける。
弱み	弱み×機会	弱み×脅威
現地化率100%を達成するための地場産業が揃う可能性は低い。	引き続き現地化率向上のための地場産業の育成に尽力しインドネシア政府の支持を得る。	政略的に地場の華僑資本企業を取り組む。



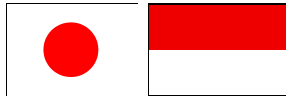
5. 住宅



総合評価	機会	脅威
民間投資の対象として自動車の次に来るのが住宅である。	中間層による夢のマイホーム時代に入っており、毎年250万軒以上の新築需要が生じている。	国内外の政情不安により金利が暴騰することで市場は一気に冷え込む。
強み	強み×機会	強み×脅威
毎年5%を超える経済成長が民間の住宅投資を押し上げている。	土地込みで10億～20億ルピアの新築住宅市場は継続して伸びる。	GDPの約60%を国内需要が占めているため、これまでの金融危機においても迅速な回復が実現した。
弱み	弱み×機会	弱み×脅威
民間投資に対する貸出金利が10%近くあり政府の補助が無いと資金調達が障害となる。	政府による5%以上の金利補助政策は経済成長を維持するための施策として続けられる。	金利が暴騰した場合は一時的に補助金も停止される。



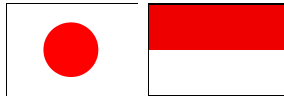
6. 生鮮食品輸送



総合評価	機会	脅威
先に本格的に着手した者が総取りする可能性が大きい。	共働きの中間層は冷凍・冷蔵食品に頼る食生活が一般化しつつある。	熱帯気候での冷凍・冷蔵食品の輸送には厳しい温度管理が求められる。
強み	強み×機会	強み×脅威
冷凍・冷蔵食品の流通倉庫ならびにアウトレットの数は急拡大している。	生鮮食品の需要は経済成長率を上回るスピードで伸びる。	資金力と輸送業界での実績を持つ大手運送会社の独占状態になる。
弱み	弱み×機会	弱み×脅威
大型の冷凍・冷蔵トラックの現地製造が遅れている。	生産拠点－流通倉庫－アウトレット間の輸送サービスが不足する状態が続く。	インドネシアでトラック製造業を傘下に持つ巨大財閥の支配下に置かれる。



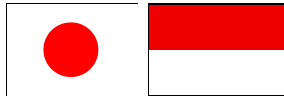
7. ハラル食品



総合評価	機会	脅威
ハラルとハラムを明確に分離したそれぞれの市場戦略が求められる。	2024年10月以降はハラル製品に対する表示の義務化が順次実施される。	厳しいハラル表示の条件を満たすことが出来ず市場からの撤退を与儀なくされる。
強み	強み×機会	強み×脅威
人口270百万の87%という世界最大のイスラム教徒を抱える国である。	インドネシア国内での実績をベースに他のイスラム諸国への事業も展開する。	270百万の13%を占める市場を対象した商品を提供する。
弱み	弱み×機会	弱み×脅威
経済を支配する層の多くは仏教徒あるいはキリスト教徒の華僑やプリブミである。	資本とは関係なく社内のハラル対応を強化する。	少数の富裕層に特化した高品質のハラム商品を開発する。



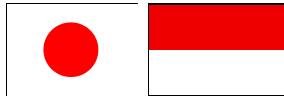
8. 生活ゴミ発電



総合評価	機会	脅威
技術を提供し、インドネシア政府が資金を出して本気で取り組むことで永久に続く事業となる。	生活ゴミの処理は地方政府の責任で対処すべく大統領令として発行されている。	首都ジャカルタでは毎日7000トンの生活ゴミが排出されているが再処理は半分以下である。
強み	強み×機会	強み×脅威
都市部の生活ゴミは近隣の集積地に貯められており、燃料は無尽蔵にある。	小規模の地方都市でパイロットプロジェクトとして地方政府と共同で成功事例を作る。	追い詰められている政府にゴミ処理の補助金を拠出してもらい営利事業として回るようにする。
弱み	弱み×機会	弱み×脅威
生活ゴミの分別、回収、再処理がシステムが制度化されておらず、ほとんどのゴミは投棄されている。	日本社会でのシステムを参考にインドネシア政府と共同でモデルケースを実現する。	日本社会の仕組みの中で良い部分をインドネシア政府の高官に理解させて実現させる。



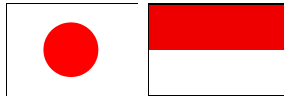
9. オンラインショップ



総合評価	機会	脅威
	ECビジネスは2018年が約1兆円で2020年にかけて倍増した。	スマホで簡単に出来る決済サービスが提供されているが安全性が懸念される。
強み	強み×機会	強み×脅威
ほとんどの国民がスマホを通じてインターネット上のオンラインショップにアクセス出来る。	無料で使えるオンラインショップのサイトが拡大を続けほとんどの商品・サービスが売買される。	スケールメリットで格安の不良債権保険も出回る。
弱み	弱み×機会	弱み×脅威
2020年の一人当たり購買力平価は世界第108位のUSD11,740/年で日本のUSD42,400の約1/4である。	毎年約5%の経済成長に合わせて購買力も確実に高まる。	世界的に発達するデジタル決済の恩恵を受けて脅威は漸減する。



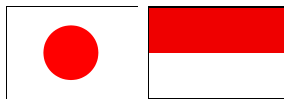
10.生命保険



総合評価	機会	脅威
市場は巨大でブルーオーシャンであるがイスラムの戒律を取り組むことが勝敗を決める。	政府による社会保険制度BPJSでは補償額が少ないと感じる中間層が増えて来る。	保険加入率が2%以下と非常に低いため先行者利益を狙う海外企業の乱入。
強み	強み×機会	強み×脅威
世界第4位の人口と労働人口、年5%前後の経済成長に伴う生命保険市場の拡大。	政府による社会保険制度BPJSを補完する形でのサービスで参入する。	所得階層別の細やかなサービスの開発。
弱み	弱み×機会	弱み×脅威
国民の約9割が唯一絶対の神に運命を委ねるイスラム教徒。	シャリア銀行のようなイスラムの戒律に沿った形のサービス開発。	シャリア銀行と提携した形でのサービスの開発。



最新のインドネシア情報はこちらから



インドネシア進出手順要点解説 <http://www.hmkt.jp/>

- インドネシア進出準備から撤退までの要点を簡潔にまとめたサイト

インドネシア最新情報ブログ <http://blog.livedoor.jp/kojindonesia/>

- あらゆる分野での情報を毎日、どんなメディアよりも早く紹介

インドネシアビジネスセミナー <https://abji.hamazo.tv/c724863.html>

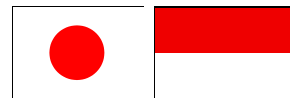
- 四半期毎に開催される一般社団法人日本インドネシアビジネス協会の会員セミナー
- 非会員でもオンライン参加が可能

教えて、小野先生 <https://abji.hamazo.tv/e9372595.html>

- 毎月第三水曜日17:00-18:00に開催されるインドネシアについての会員限定オンライン勉強会
- 入会金は1,000円/月

インドネシア進出ハンドブック

- あらゆる進出形態での事業開始から撤退までのステップを詳細スケジュールと資料で解説
- 45年間のインドネシア事業で得た全ての知見を掲載
- 資料一式を<http://www.hmkt.jp/handbookset.zip>からダウンロード可



ご清聴ありがとうございました
ここからは質疑応答です